発行：2024 年 9 月 14 日　奈良県立美術館

特別展 エドワード・ゴーリーを巡る旅 関連展示

エドワード・ゴーリーと日本文化

—20 世紀アメリカの眼—

「源氏物語画帖」幻 江戸時代・17 世紀 個人蔵

アメリカのシカゴで生まれ育ったエドワード・ゴーリー（1925-2000）は、第二次世界大戦中、日米の交戦が激化した 1943 年に 18 歳で軍に入隊し、ASTP（米国軍の言語需要に応じることを目的とした陸軍特別研修計画）の任務に選ばれ、対戦国の言語である日本語を学習することになり、一時期、シカゴ大学で日本に関する勉強に熱中しました。ゴーリーが一生涯日本文学と芸術に関心を抱いたきっかけは、この兵役の経験にあると言われています。

ゴーリーは、戦争終結後の 1946 年にハーバード大学に入学し、フランス文学を専攻しましたが、能や歌舞伎などの日本文化にも関心を寄せていました。ニューヨークに移住してから読み始めた『源氏物語』は生涯の愛読書になりました。

また、ゴーリーが青年期を過ごした 1950 年代のアメリカでは、日本美術への関心が高まっていました。その理由としては、19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて欧米圏を席巻したジャポニズムの流れを受けて収集された東アジア美術コレクションの基盤があったことと、戦後 GHQ 占領下の日本から莫大な量の美術品がアメリカへと流出したことが挙げられます。戦後のアメリカでは、戦争によってアジアとの接触が増えたことを経て、戦前のコレクションの基盤のもと、再び日本を含む東アジア美術が注目されたのです。

このような時代の中で、ゴーリーは、東西の様々な文化を貪欲に摂取し、その素養をもとに、自身の作品世界を作り上げたといえます。イギリス風の印象の強いゴーリーの作品には、意外にも、日本美術の影響が見られるものがあります。ゴーリーの愛好した日本文化とともに、ゴーリーが影響を受けた日本美術の特徴を紹介します。

第１章　ゴーリーの愛した日本文化　―源氏物語の世界―

「源氏物語画帖」竹河　江戸時代・17 世紀　個人蔵

個々の人間にとって生きることとは何かという問題について、これほど強く認識している文学は他に見当たらない。

―『ザ・ライオン・アンド・ザ・ユニコーン』第 1 号、1978 年 より抜粋※

It has a stronger sense of what life is to the individual living it than any other literature I've ever read.

― *The Lion and the Unicorn*, Number I , 1978

※カレン・ウィルキン編(小山太一・宮本朋子訳)『どんどん変に…』河出書房新社、2003 年、101 頁

ゴーリーは、愛好する文学を尋ねられた際には一貫して、18 世紀イギリスの女性作家であるジェイン・オースティンの次に、紫式部の『源氏物語』を挙げていました。ゴーリーは、アーサー・ウェイリー訳※1 を繰り返し読み、愛読していました。

日本では、11 世紀初期の『源氏物語』成立後、54 帖にわたる物語の中から情景を選び取って絵画化した「源氏絵」が描き継がれてきました。『源氏物語』が尊ばれた伝統の中で、「源氏絵」は、古典的教養の証として愛好・鑑賞されたのです。

ゴーリーは『源氏物語』について、「西洋文学ではほとんど扱われることのない、存在についての感情の機微を表現している」と語っていますが、「源氏絵」の制作において、絵師たちは、人物の表情や仕草、構図、装飾などにさまざまな趣向を凝らすことで、登場人物の心の動きを表現しようとしました。

※1　1925 年から 1933 年にかけて出版された『源氏物語』初の英語全訳。

ゴーリーが愛好した日本文化いろいろ

ゴーリーは日本だけでなく、洋の東西を問わず様々な地域の文化に接し、 吸収しましたが、日本文化への思い入れは特に強かったといえます。

ゴーリーは日本文学について、「二十世紀以前に書かれた、英訳で手に入るものはすべて読んだ」と述べています。『源氏物語』のほかにも、『枕草子』や、川端康成などの近代以降の文学を読んでいました。ゴーリーはこれらの日本文学の、物語の諸要素を省略して凝縮する特質に影響を受け、自身の本も「いろんなことを描かずに済ませ、すごく短く」したと語っています。

京都の龍安寺石庭にも行ってみたいと語っており、1～50 の数字が振られた猫の絵が収録される『キャッテ ゴーリー』の５番目のイラストには、石庭の情景が描かれています。

「一年で千本映画を見た」年もあったと述べるほどの映画好きのゴーリーは、日本映画では、小津安二郎らと共に日本映画の名匠とされる成瀬巳喜男の作品がお気に入りでした。成瀬映画も、劇的な場面を省略することが特徴です。このようにゴーリーは日本文化の省略的な側面に強く惹かれていました。

第Ⅱ章　ゴーリー作品の中の日本　―戦後アメリカの日本美術受容と関連して―

ゴーリーの作品の中には、日本美術からの影響が見られるものがあります。

『蒼い時』のうちの 1 枚は扇面画の形式を模倣したものですが、ゴーリーは他の作品でも度々、キャラクターに扇子を持たせています。このようなモチーフの引用だけでなく、『具体例のある教訓』（3-9,10）の余白を活かした構図や、『ずぶぬれの木曜日』の雨の表現など、ゴーリーはさまざまな方法で日本美術的な要素を自身の作品に織り込んでいます。

また、ゴーリーがニューヨークに移り住んだ 1953 年には、アメリカ 5 都市を巡回する大規模な日本美術展が開催されました。この展覧会では、「鳥獣戯画」（京都・高山寺蔵）や「扇面法華経」（大阪・四天王寺蔵）をはじめとする国宝、重要文化財級の作品を、のべ 42 万人が鑑賞しました。

戦後アメリカの日本美術受容―1953 年の 5 都市巡回日本古美術展―

1953 年の日本美術展は、ワシントン D.C.会場を皮切りに、ニューヨーク、シアトル、シカゴ、ボストンの 5 都市を 1 年かけて巡回しました。仏教美術からやまと絵、水墨画、琳派や文人画・肉筆浮世絵を含む江戸絵画など日本美術史を代表する名品が出品されました。

戦前のアメリカでは、19 世紀末の万国博覧会の影響により、大衆の中で工芸品が人気を得ていましたが、絵画や彫刻などは、個人の美術愛好家たちによって収集されるにとどまっていました。この展覧会は、日本美術が一部の人々によって収集・愛玩された時代から、大衆が鑑賞・受容する時代へと移行した大きな転換点にもなったと捉えることができます。

ゴーリーがこの展覧会に訪れたかは確証がありませんが、このような社会の潮流の中で日本美術への関心を高めていったことは想像に難くありません。

雪村「山水図屏風」室町時代・16 世紀

ゴーリー作品の余白と省略

ゴーリーの作品には、細く繊細な線を駆使して緻密に描き込むものと、それとは対照的に、大胆に空白・スペースをとり、奇妙に簡素な画面を呈するものがあります。

全面に絵の具を塗り込めることで、二次元の画面の中に三次元の空間を再現することを志向してきた西洋美術に対し、わざと画面に余白を残し、その余白を、「モチーフ」と見立てたり、「間」としたり、「想像の余地を孕んだ空間」として活かすというのは、日本・東洋美術の方法でした。

ゴーリーの『具体例のある教訓』の水辺の情景や、『輝ける鼻のどんぐ』の主人公のどんぐがただ一人で岸に座って海を眺める情景などは、余白を効果的に用いた例といえます。

ゴーリーが好んだ成瀬巳喜男の映画も、重要な場面を描かないのが特徴とされます。ゴーリーの『金箔のコウモリ』や『青い煮凝り』では、登場人物の死の瞬間は、絵にもテキストにも描かれず、死を示唆するモチーフや場面が描かれています。

このようにゴーリーは、日本・東洋文化の余白や省略の方法を、自身の作品にも取り入れました。

（学芸員・村上かれん）

作品リスト ／ List of Works

エドワード・ゴーリーと日本文化
—20世紀アメリカの眼—

奈良県立美術館 2024.9.14 SAT ～ 11.10 SUN

Edward Gorey and Japanese Culture
—A 20th Century American Perspective—

Nara Prefectural Museum of Art

展示期間はつぎのとおりです。
前期：9月14日（土）～10月6日（日）
後期：10月8日（火）～11月10日（日）

The exhibition periods are as follows.
First Period: September 14th (Sat) – October 6th (Sun)
Second Period: October 8th (Tue) – November 10th (Sun)

No.	作品/Title	作者・出版社/Artist	員数/Quantity	品質形状/Medium	制作年代/Creation Date	所蔵/Collection	展示期間/Period 前	展示期間/Period 後
第Ⅰ章 ゴーリーの愛した日本文化—源氏物語の世界—　Part I: World of The Tale of Genji: Japanese Culture Admired by Gorey								
1	源氏物語画帖		1帖（3帖のうち）	紙本墨画淡彩	江戸時代・17世紀	個人蔵	幻	竹河
2	紫式部像		1枚	絹本著色	江戸時代・18世紀頃	奈良県立美術館		
3	源氏物語図屏風		6曲1双	紙本著色	江戸時代・17世紀頃	個人蔵	右隻	左隻
第Ⅱ章 ゴーリー作品の中の日本—戦後アメリカの日本美術受容と関連して—　Part II: Japan in Gorey's Artworks and the Reception of Japanese Art in the US After the War								
4	桜花紅葉図扇面		1面	紙本著色	江戸時代・17-18世紀	奈良県立美術館		
5	白鷺図扇面	伝 中村芳中	1幅	紙本著色	江戸時代・18-19世紀	奈良県立美術館		
6	七福神乗宝船図	北尾重政 画	1枚	大判錦絵	江戸時代・18世紀	奈良県立美術館		
7	七福神乗宝船図	歌川芳虎 画	二枚続	大判錦絵	江戸時代・慶応2年（1866）	奈良県立美術館		
8	風俗図屏風	伝 久隅守景	6曲1隻	紙本著色	江戸時代・17世紀	個人蔵		
9	東山遊楽図屏風		6曲1隻	紙本金地著色	江戸時代・17-18世紀	個人蔵		
10	踊り絵巻	伝 野々口立圃	1巻	紙本著色	江戸時代・17-18世紀	奈良県立美術館	場面替えあり	
11	琴柱の落雁	勝川春山 画	1枚	中判錦絵	江戸時代・18世紀	奈良県立美術館		
12	『くまなき影』	皎々舎梅崕 編 落合芳幾画	1冊	紙本色摺	江戸時代・慶応3年（1867）初版	奈良県立美術館		
13	清明上河図	伝 柳沢淇園	1巻	紙本著色	江戸時代・18-19世紀	奈良県立美術館		
14	山水図屏風	雪村	4曲1隻	紙本墨画	室町時代・16世紀	奈良県立美術館		
15	楚辞漁夫問答図	伝 雪舟	1幅	紙本墨画淡彩	室町時代・15世紀	奈良県立美術館		
16	瀟湘八景図扇面	「州信」印	1面	紙本墨画	安土桃山時代・16世紀	奈良県立美術館		
17（参考）	ミステリー！ポストカード	原画：エドワード・ゴーリー	1枚			個人蔵		
18	大はしあたけの夕立-名所江戸百景	歌川広重 画	1枚	大判錦絵	江戸時代・安政四年（1857）	奈良県立美術館		
19	赤坂桐畑雨中夕けい-名所江戸百景	歌川広重 画	1枚	大判錦絵	江戸時代・安政六年（1859）	奈良県立美術館		
20	『ミステリマガジン』	早川書房	1冊		1976年12月号	島田安彦コレクションアーカイブ		